

わかりやすい



リフォーム基礎知識

一級建築士 西田 恭子

(三井のリフォーム 住生活研究所 所長)

二世帯住宅でストレスなく暮らすためのポイント

リビングは共用、浴室は別がベター!?

「一緒に暮らさない?」そんなラブコールを親御さんが子世帯に投げかけるケースが多いようです。でも、家の広さを考えると現実的には難しく、家をどうするかが課題になります。そんな時、今の家にこだわらず、大き目の家に移り二世帯住宅にリフォームするのも選択肢の一つです。

二世帯がともに暮らす家につくりかえるためには、多くの決め事があります。最初の決め事は、親世帯と子世帯のゾーン分けをどうするか。完全分離の隣居スタイルにするとしても、左右で住み分けるのか、上下階で分けるのかという選択肢があります。また、玄関や浴室など一部を共用するという選択肢もあります。

以前、私がリフォームを担当した二世帯住宅に、玄関や浴室は別々で、リビングは共用というケースがありました。それぞれにリビングを持つとすればスペースも狭くなりますが、共用の場合であれば広々としたリビングをつくれます。また、リビングはともに暮らす楽しさを共有できる空間。楽しい部分は一緒に過ごし、設備関係は別々にする、これは、私のお勧めポイントです。

よく光熱費を考えて浴室を一緒にするケースがありますが、実は浴室は双方にとってストレスのもとになりやすい場所です。「早く入れればいいのに」「冷めちゃうわ」「まだ入っているのか」など、小さな不満が蓄積しやすいのです。同じく、トイレやキッチンなどの設備も不満の出やすい場所です。共用にすれば光熱費や水道代を抑えられますが、その場合は双方が気持ちよく

暮らせるよう前もって十分なルール作りが大切でしょう。

「こんなはずじゃなかった」という後悔だけはしたくありませんから、トラブルの芽は設計段階で摘んでおく必要があります。予想される問題は一つ一つ解決していきましょう。

たとえば、生活のリズムの違いから生じる音の問題は、トラブルに発展しがちです。とくに上下階のゾーン分けの場合、子世帯が上階になるケースが一般的ですが、若い人は夜型が多く、部屋を歩き回る音や入浴時の音は階下はかなり響きます。そこで、水回りは上下階で同じ位置にし、寝室の上に活動スペースがこないような間取りを設定し、音の出やすい場所にはリフォーム時に防音シートを張るなどの対処が必要です。

また、インターホンや電話、ポストの共用も、意外とストレスになりやすいポイントです。お互いの交流関係が知ろうとしなくてもインターホンや電話が共用だと気になりますし、ポストが一緒の場合は新聞を取るのが遅ければ「寝坊している」と思われそうで気になります。玄関は共用しても、ポストとインターホンは別にするのも良策でしょう。

親世帯は生活スペースが狭くなる

なお、親世帯は、生活スペースが狭くなることを心得ておくことも大事。子世帯と同居するわけですから、面積が半分以下になることも多いものです。それを不満に思うのではなく、ホテルライクのようなコンパクトな暮らしをイメージしてみてください。ワンルームで暮らすお掃除性能の良さや、すべてが見渡せる快適性があります。また親世帯にとってこのリフォームは、終の住処を築くものであり、ずっと残したい物と整理する物を別けるよい機会にもなるはずです。

二世帯住宅のよさは、何といても親子世帯が近くにいる安心感がお互いに大きいこと。そのうえで家族が何を大事にするかによって、リフォームの形はいかようにもかえられます。ともに暮らす家をより豊かな生活の場にするために、自分たちのスタイルをみんなで楽しく話し合っ決めていきましょう。

